

令和2年11月20日

学生各位

学校医 河合 伸也

重要：新型コロナウイルス感染に改めて厳重な警戒を

新型コロナ感染の第3波の大波が迫ってきそうな感じです。呼吸器系疾患は寒さと乾燥の時期に大発生する可能性が高い疾患です。季節性インフルエンザや通常の風邪症等が発症する時期と重なっています。

現在、国内の感染者数が増大しつつあるなかで、特に北海道での感染者数が多いのも、寒さが重なった時期であることが関係している可能性が高いと推測しています。ただ、この新型コロナ感染症は夏にも流行しており、寒い時期に限らない傾向もありますが、寒さと乾燥が関与して、さらに増悪することは推測できます。この週末頃から寒さが厳しくなってくるようなので、感染者が多発する可能性が高くなることを警戒しています。新型コロナ感染が始まってから、すでに日数が経過しており、お互いに警戒状態を維持することに草臥れてきた想いがしますが、今こそ改めて厳重な警戒を要する時です。

想定されるシナリオを厳しく推測してみると、感染時には殆ど無症状・無自覚ですが、その時期は感染力が強いので、周囲の人達（多くの友人や仲間）に感染させます。そのうちに本人は発症して治療を受けることができます。しかし、すでに大学内で集団感染が発生しており、大学は休講状態に入り、マスコミに汚名を曝すだけでなく、入学試験の受験者が大幅に減少し、その年の入学者は数が少なく、質も落ちてきます。それが続くと、大学の評価が下がり、大学の存続に影響します。

このような事態を引き起こした人は、自責の念に駆られ、辛い人生を過ごすことになるでしょう。

これは厳しい想定ですが、あり得ない話でもないように思います。今こそ、新型コロナ感染症の怖さを思い浮かべる時期です。感染の予防策は今までに充分に聞いて知っています。基本的な事柄を実践するのみです。自分のためだけでなく、友人・先輩やお世話になっている人達を犠牲にしないためにも、気を緩めずにお感染予防及び拡大防止対策を厳守してください。

以上